

シカの特性と被害対策

【シカとは】

- 哺乳綱（ほにゅうこう）偶蹄（ぐうてい）目シカ科に属する動物の総称。
- 体長：頭胴長90～190cm。北方のものほど体格が大きい。角は4枝をもつ
- 体重：50～130kg
- 主食：草だけでなく、ほとんどの植物をえさとして食べる。イネ、ムギ、ダイズ、トウモロコシ等の農産物や、シイタケ、マツタケなど林産物なども食べる。

シカは昼夜問わず、活動と休息を繰り返します。畑など開放的な場所に出るのは夜の方が多いですが、実際日中に畑に居るシカを目撃することも多く、電気柵は24時間体制で稼働させるべきです。また、シカの被害は作物の芽だしの時期から収穫まで恒常的に発生しますので、時期を問わず電気柵は機能させておくことになります。

【シカの被害を防ぐために】

現在の日本で、シカの被害だけが生じている地域というのはむしろ稀であり、被害実数を減らすためには、複合的な防除をいかに成功させるかが重要となります。シカに対しても電気柵はやはり心理柵として機能します。イノシシとシカ、などのケースが考えられますが、最も効果的で低コストの防除対策として防護柵が必要と考えられます。

近年、シカが道路に飛び出してきたり見通しの悪いカーブに立っていたりして、シカが車にはねられる事故が相生市で相次いでいることから、特に夜間の走行には速度を落とした安全運転が必要となっています。

【主なシカ被害】

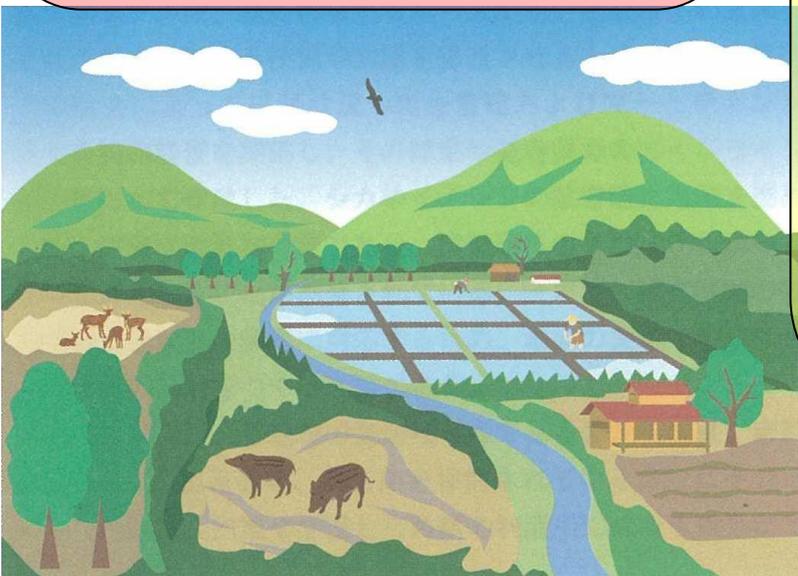
- 農作物を食い荒らす

ほとんどの植物をえさとしていることから農林産物の被害が多い。森林の被害では、シカの口が届く高さが餌場となり、森林伐採後の低いところでは最高の餌場となり、新芽の食害が連続して行われる。シカにより山が荒地化し、土壌流失や土砂災害などの被害が広がっている。

【シカの特徴】

シカの特徴は、食べる量に加え群れをつくって被害を出すところです。国内では、一枚の農地に幾つかの群れで50頭ものシカが降りている地域もあります。一晩にシカ1頭が20kgの作物を食べるとしても、50頭なら1tの作物被害があることになります。小さな農地では、一晩にシカの群れで作物が全滅という事態にもなり得ます。

シカは、適した環境では基本的に増えるように遺伝的に設定された生きもので、耕作放棄地・農地・道路法面・皆伐跡など、彼らの好む草地が増えると増加のスピードも増します。現在の日本は総じてシカに適した環境にあり、防除をおこないながら駆除による個体数調整を併用するスタンスとなります。シカによる被害をシカへの援助ととれば、被害を防ぐことが、シカの増加を緩和することにもつながります。



問い合わせ先
相生市農林水産課
0791-23-7156